



令和8年度

金沢大学
資料館
特別展

木簡・墨書土器からさぐる

田上角間の古代

2026
7.21^火—
10.16^金

📍 金沢大学資料館展示室
(角間キャンパス中央図書館・資料館棟)

【開館時間】 10:00～16:00

【休館日】 土日祝日、
大学の夏季休業期間(8/10～8/14)
及び附属図書館の休館日

【展示協力】 石川県埋蔵文化財センター、
金沢市埋蔵文化財センター、京都市考古資料館、
京都市埋蔵文化財研究所、宮内庁正倉院事務所、
津幡ふるさと歴史館れきしる、向日市教育委員会、
向日市埋蔵文化財センター、金沢大学附属図書館

【問合せ】 金沢大学資料館
TEL: 076-264-5215
e-mail: museum@adm.kanazawa-u.ac.jp

※この特別展は、石川県民大学校の講座として登録されています。

※10/17(土)と10/18(日)は、金沢大学公開講座
といしかわ文化の日に合わせて臨時開館します。

1. 北中条遺跡出土墨書土器「深見驛」
2. 三小牛ハバ遺跡出土木簡(3号)
3. 角間遺跡一乗寺地点出土墨書土器
4. 長岡京跡左京出土34号木簡「加賀采女道公...」



金沢大学資料館

奈良時代や平安時代には、紙だけでなく、木の板に文字を書いて使用していました。これを「木簡」と呼びます。木簡には、物に付ける付札・荷札、役所の官吏が作成する書類、習字の練習など、様々な用途がありました。古代の地方から都に運搬した品々に付された木簡で出土状態が良いものの一部からは、当時の地名を読み取ることもできます。中には、「田上郷」「加賀」「越前国江沼郡」など、現在私たちの地域に残る地名も見られます。また、発掘調査で出土した古代の土器にも、墨で人名や寺院名を記した「墨書土器」と呼ばれる遺物があります。これらの出土資料からは、古代と現在の地域のつながりがうかがえます。

古代の田上・角間は、どのような地域だったのでしょうか。本特別展では、大学の近隣地域の古代の様子を木簡や墨書土器といった出土文字資料から読み解き、解説を加えます。そして、大学博物館の資料と活動を広く地域の方々にご紹介します。

◆ 特別展「田上・角間の古代－木簡・墨書土器からさぐる－」関連イベント

I 金沢大学資料館夏休みワークショップ

木簡を作ってみよう！

古代の木簡の形をした木の板に、筆と墨で文字を書き、自分だけの木簡を作ります！

日本古代史を専門とする金沢大学の先生が、わかりやすく解説します。完成した木簡は、各自お持ち帰りいただけます。本のしおりにピッタリです。



角間遺跡一乗寺地点出土 青磁水注

II

令和8年度金沢大学資料館特別講演会

古代資料から考える田上・角間

【講演者】

金沢大学資料館研究・調査部門長
人間社会研究域国際学系 准教授

吉永 匡史

金沢大学資料館教育・展示部門長
資料館 特任助教

松永 篤知

日時

2026（令和8）年10月3日（土）
午後1時～午後3時
※講演会終了後にミュージアムツアーを行います。

場所

中央図書館・資料館棟
3階 AV 室及び2階展示室

対象

どなたでもご参加いただけます。
事前予約は不要です。

※このワークショップと特別講演会は、石川県民大学校の講座として登録されています。

アクセス



●北鉄バス「金沢大学」行き乗車 / 「金沢大学中央」バス停下車・徒歩5分（JR金沢駅から所要40分）。お車の場合は、案内図のB駐車場をご利用ください。